

第3章 2040年代に想定される社会変化への対応

現状の多摩ニュータウン再生の課題を解決していくことに加えて、交通インフラ整備の進展、技術革新など、社会の変化にも的確に対応していくことが求められます。

交通インフラ整備の進展

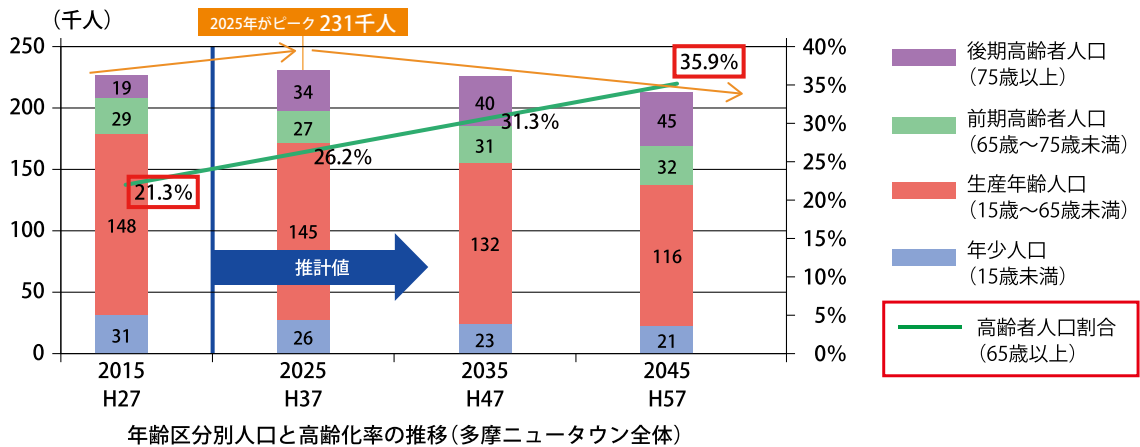
- リニア中央新幹線の開業や南多摩尾根幹線道路の整備の進展などにより、多摩ニュータウンと他地域との交流が一層活発化するものと考えられます。



社会状況の変化

■ 高齢者の増加と生産年齢人口減少の進行

- 多摩ニュータウンの人口は、平成37(2025)年をピークに減少に転じ、生産年齢人口、年少人口は年々減少を続ける一方、高齢者は増加し続け、2040年代には1/3以上を占めると推計されます。



技術革新

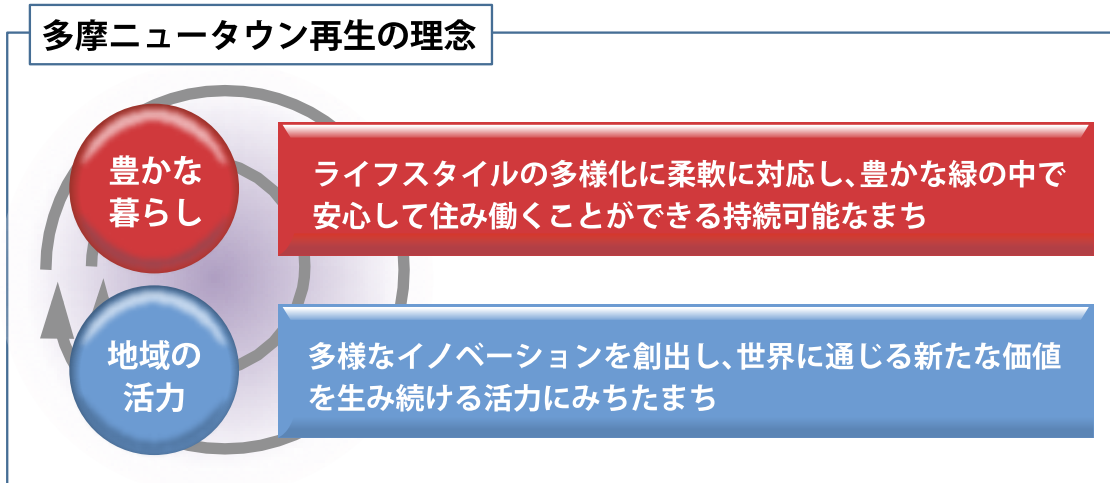
- 2040年代の社会の変化を支える技術革新で想定される多摩ニュータウンのライフスタイルイメージを示します。

項目	ライフスタイルで想定されるイメージ
自動運転技術など	自動運転や新たな移動手段の導入などにより、高齢者や子育て世代など交通弱者の自由な移動が実現
エネルギー・環境技術	先進的な環境技術の分野の進展により、水素などの活用が進み、より低炭素で持続可能なまちが実現
人工知能(AI)技術	知性や感性の要素を持ったロボットが福祉分野に幅広く導入され、高齢者などの生活支援に活用
情報・通信技術	IoT技術により、モノの位置や動きをリアルタイムに把握できるようになり、子育て支援や高齢者の見守りなどに活用

第4章 多摩ニュータウンが目指す将来像

多摩ニュータウン再生の理念

住民、事業者、地元市などと連携した取組を進めるために、再生の理念を明らかにします。



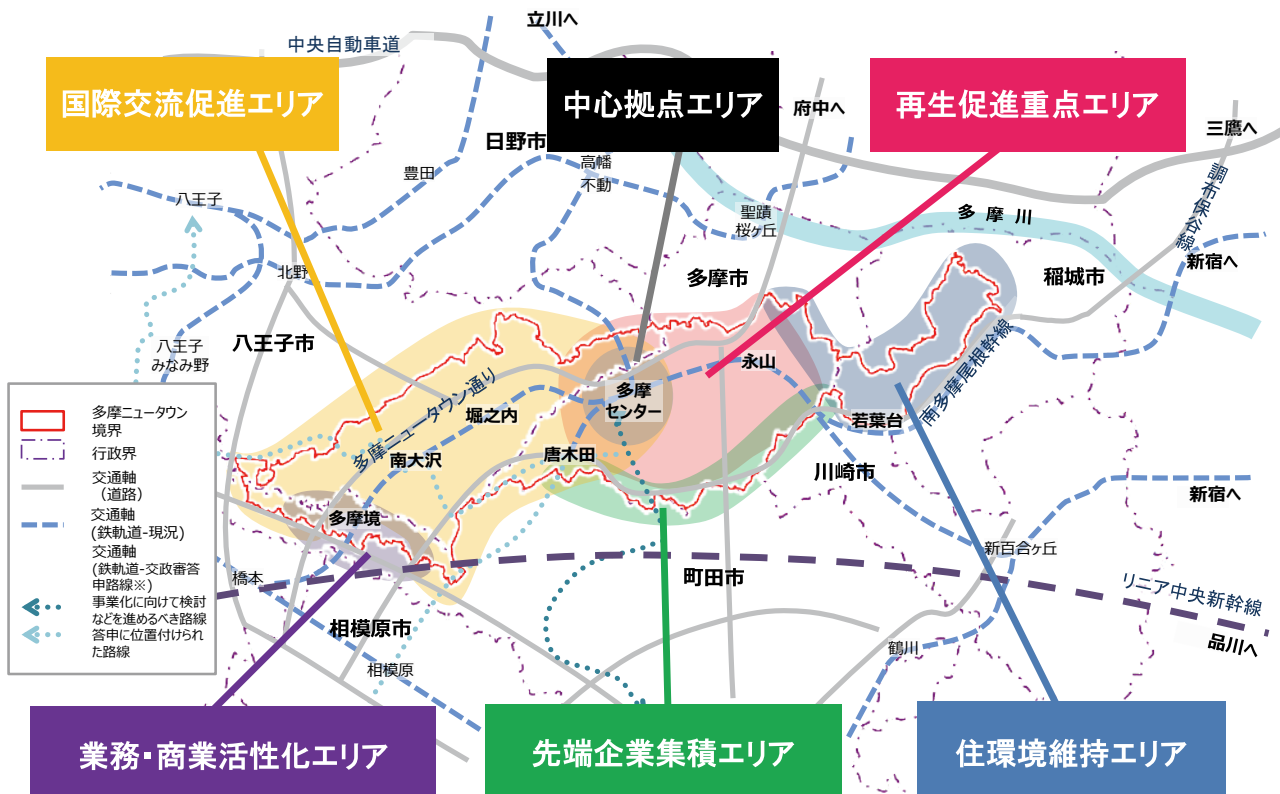
目指すべき都市像・地域像

広域的な視点を踏まえた目指すべき2040年代の将来像を都市像として示します。

■目指すべき都市像

緑豊かで高質な住環境のストックや大学の集積、周辺地域と交流・連携しやすい立地などを生かし、新たな価値を生む拠点として多様なイノベーションを創出するとともに豊かな暮らしを支える機能が集約された持続可能な都市

■エリア別の地域像



※「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について(答申)」(平成28年4月20日 交通政策審議会)において示された路線